



All Japan Road Race Championship 2022
RACE REPORT

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Media Infomation

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦
 AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2022

大分県・オートポリス (1周=4,674m)

5月21日(土): 公式予選・JSB1000 レース 1

5月22日(日): JSB1000 レース 2

観客動員数: 8,500人 (2日間合計)

JSB1000クラス #5 名越 哲平

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

レース1 予選7番手 (タイム: 2分00秒084) 決勝: 5位

レース2 予選6番手 (タイム: 2分00秒236) 決勝: 6位

JSB1000クラス #28 榎戸 育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

レース1 予選8番手 (タイム: 2分00秒273) 決勝: 8位

レース2 予選7番手 (タイム: 2分00秒622) 決勝: 10位

1 Motegi

2 Suzuka

3 Autopolis

4 Sugo

5 Tsukuba

★ Suzuka 8H

6 Autopolis

7 Okayama

8 Suzuka



名越が戦列に復帰。榎戸が魅せたロケットスタート！



シリーズ第3戦を迎えた全日本ロードレース選手権は、大分県・オートポリスで行われた。前戦に続き、4輪のスーパーフォーミュラと併催の2&4レースとなり、JSB1000クラスのみで開催となった。オートポリスでの2&4レースは、2019年以来3年振りとなり、事前テストはなく、金曜日のART走行からレースウィークがスタートした。

今回はSDG Honda Racingの名越哲平が、いよいよ戦列に復帰。SDG Motor Sports RT HARC-PRO.の榎戸育寛と共に今シーズン初めてJSB1000クラスにエントリーした。



JSB1000 #5 Tepppei Nagoe

金曜日のART合同走行は、1本目が11時40分からと、JSB1000クラスとしても、ゆっくりとしたスケジュールで始まった。前週に第4戦に向けた事前テストが宮城県・スポーツランドSUGOであり、そこで久しぶりにJSB1000マシンをレーシングスピードで走らせた名越だったが、転倒もあり今回のオートポリスラウンドは厳しい戦いになることが予想された。しかし、約1週間の間にフィジカル面では、かなりの回復が見られ、オートポリスは昨年最終戦で2位に入っている相性のいいコースだけに、名越自身も期待して臨んだ。

実際は、今シーズン初めてのレースウィークということで、やることは山積みだったが、こなせることを一つ一つやっていくだけだった。1本目は名越が5番手、榎戸が9番手、2本目は、名越が5番手、榎戸が11番手につけた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

土曜日の公式予選は朝8時40分から始まった。朝方まで降っていた雨の影響もあり、路面は濡れている状態。朝一番のセッションだけに、走行が始まればライン上は乾いていくことも予想されたが、オートポリスは乾きにくい場所もあるため、まずはレインタイヤでコースに出ていく。

気温も低く霧雨も降る難しいコンディションとなり、名越も榎戸もウエットタイヤでのアタックとなっていた。名越は、ウエットタイヤのまま走り切り7番手、榎戸は、最後にスリックタイヤに履き替えたが、思うようにタイムアップできず8番手となった。レース2のグリッドを決めるセカンドタイムでも名越が6番手、榎戸が7番手と2人が続く予選結果となった。



JSB1000 #5 Tepppei Nagoe

15周で争われたレース1。天気も回復しドライコンディションとなっていた。2人とも、まずまずのスタートを見せ、榎戸が7番手、名越が8番手で1コーナーをクリアしていく。オープニングラップの混戦で名越が9番手、榎戸が10番手とポジションを落とすが、それぞれポジションを上げていく。名越は、5日目までに6番手に上がり前を追っていく。榎戸もレース終盤となる12周目にポジションを上げ8番手を走っていた。最終ラップに前を走っていたライダーが第2ヘアピンでオーバーランしたため、名越が一つポジションを上げ5位でゴール。榎戸は8位でチェッカーフラッグを受けた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

レース1より3周多い18周で行われたレース2。ハイライトとなったのは、スタートだった。榎戸は3列目からアウト側のラインを取ると一気にポジションアップ。1コーナーへ2番手で入っていく。名越は8番手につけ、オープニングラップは、榎戸が3番手、名越が7番手で終え、2周目に入っていく。

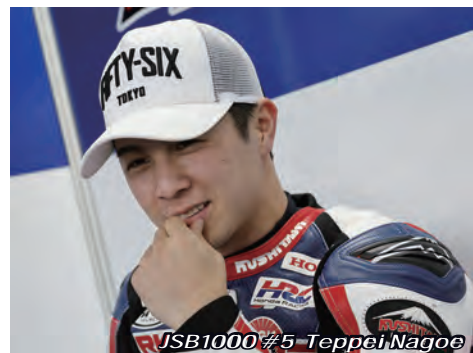
ST仕様のマシンを駆る榎戸は、本人も予想はしていたが、JSB1000マシンとのブレーキング競争で厳しくポジションを落としていく。名越が榎戸の前に出ていくと8周目には、6番手に浮上。そのまま6位でチェッカーフラッグを受けた。榎戸は何とかシングルでフィニッシュしようと粘走するが10位でゴールしている。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

名越哲平コメント

「まずはレースに復帰できたことをチーム、昭和電機を始め、支えてくださっている皆さんに感謝したいです。今回が2022年シーズン最初のレースになりましたが、思っていた以上に2戦4レースを欠場したことで遅れをとっているという印象でした。前週にあったSUGO事前テストのときよりは、体感的には回復していましたが、タイヤのセレクトからベースセットが定まっていない状態で走り出したので、いろいろこなす項目も多かったですが、その中で2レースをしっかりと戦えたことは、よかったです。次戦では遅れを取り戻して、もっといいレースをしたいですね」



JSB1000 #5 Tepppei Nagoe

榎戸育寛コメント

「6位以内を目標にしていたので、予想はしていましたが率直に悔しい気持ちが強いですね。レース1よりもレース2でいいスタートを切ることができましたし、追い下がるレースになってしまいました。いい要素もありました。何とかシングルフィニッシュしたかったのですが…。次戦SUGOは、事前テストでいい感触があったので、上位に食い込めるように精一杯走ります」



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido